

旭

印刷を支え加工を活かす

東大阪工場 折部門 丸井 恵子

2003年(平成15年)に中途入社して以来様々な部門で活躍し、旭紙工株式会社に貢献してきた丸井恵子さん。前職での多彩な経験を活かし、常に前向きな姿勢で働く丸井さんに、これまでの道のりや初めての仕事に取り組み際のコツなどをお聞きしました。



「入社のおかげについて教えてください。」

「ちょうど仕事を探していた頃、自宅から近いやすい距離で良さそうな会社があるなど興味を持ちました。募集要項を見ると営業補佐としての募集だと知り、金融業で営業を担当していた経験もあったので、入社試験を受けてみようと思ったのがきっかけです。」

「これまで経験したお仕事について教えてください。」

高校を卒業してすぐ入社したのは工務店です。3〜4年ほどで不動産会社に転職し、どちらの会社でも事務職として働いていました。各現場でかかる様々な費用などの帳簿付けや集金、銀行への入金業務などの経理補助を担当していました。

その後、今までは違う仕事にチャレンジしてみたくなり、売店の販売担当も経験。その売店は食品から日用品までを取り扱う小さなデパートのような場所です。私が担当していたのはギフト商品です。お客様への商品のご案内や、ラッピング、仕入れも手掛けていました。この時は勤務が昼からだったので、午前中の空いた時間を使ってホテルの朝食担当アルバイトも掛け持ちしていましたね。

旭紙工に入社してからは、営業部門、物流部門、マルチポストプレス部

た。でもこの時も、前職で培った接客のスキルが役に立ちました。

「仕事で壁にぶつかった時はどのようにして乗り越えるのですか。」

「まずはその時の仕事にしっかりと向き合うこと。自分の頭で考えて業務に取り組むのが大切だと思います。その上で周りの人をよく見て、良い所をどんどん取り入れていく。1つの方法に固執するのではなく、物事を柔軟に捉えてやり方を変えてみると問題解決に繋がります。」

「ほかに、休日にはしっかりと気分転換をする。私の趣味は1人でぶらりと、少し遠くまで足を伸ばす小旅行です。見たことのない景色を眺めたり、初めて訪れる場所に身を置いたりするつもりでフレッシュできて「また仕事を頑張ろう」という気持ちになれるのです。」

「今後はどんなことに力を入れていきたいですか。」

「業務を効率的に行えるよう力を磨きたいと思います。時間との戦いもありますので、自分にできる限りのことをやって、より早く丁寧な作業できるようにになりたいと思います。」

「チャレンジ精神を忘れず、たゆまぬ努力を続ける丸井さん。飽くなき向上心を胸に今後も成長を続けていくでしょう。」



門を経て、折部門に配属されて今に至ります。

「様々なご職業、部門を経験されて良かった点や、学んだことはなんでしょうか。」

「たくさんの人と出会えたのが私の財産となっています。中には有名な方もいらっしゃるって、普通に暮らしているとは思えない人だと思うと、興味深い体験でした。また、色々な職種に挑戦したからこそ、はじめのうちは「自分には向いていないかな」と思っていた仕事に意外に楽しかったり、それまで知らなかった自分の適性も発見できました。様々な業界や職場での体験を通して、見聞も広がったように思います。」

旭紙工では色々な部署を経験できた



「これまでのご経験の中で、一番苦労したお仕事はなんですか。」

「おかげで、部署ことごどのような大変さや苦労があり、皆さんがどのように努力しているのかを知る機会を得ました。実際に経験してみないと見えてこないこともたくさんあると感じます。」

「友人に誘われて始めた金融機関での営業担当です。ノルマがあったので、とにかく数をこなす必要があり、忙しい毎日を通りました。新規顧客開拓の際には融資を必要とする方を探し、そのお客様それぞれに合ったご案内をします。それが電話となると、相手の顔が見えないからか、信頼を築くのがなかなか難しく、電話の段階で警戒されてしまうと、直接お会いしてお話をする機会を失うため大変です。」

笹徳印刷様から表彰いただきました!



1月13日、愛知県の笹徳印刷株式会社様にて「協力賞」の表彰をいただきました。
TOYOTA カレンダーにおいて、店名多種で120万冊という大ロット案件を、不良ゼロで加工した実績による評価です。
皆様の丁寧な作業に改めて感謝申し上げます。

設備紹介

スタール RD 66T



私が紹介します!

瓜破工場で、折部門の作業に欠かせない「スタール RD 66T」。今回は、その機能や使用上の注意点などについて、折部門の課長の寺山さんにお話を伺いました。メンバーの育成や目標についても必見です。



てらやま こうさく
寺山 幸作さん
工場本部 瓜破工場 折部門
課長

紙を折る
ための機械

Q.どのような機械なのでしょう?

「66」という数字は紙の寸法を表していて、天地の長さが660MMまでのサイズの紙を載せて折ることができます。折部門では最も生産性の高い機械で、セッティングさえしておけば、24時間ノンストップで稼働します。

徐々に台数を
増やして
活躍中

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか?

私が入社する前の1994年頃に1号機が導入されて以来、従業員の増加とともに台数も増えました。折機は紙のサイズ毎に何種類もありますが、瓜破工場折部門では、6台の66Tと3台の56Tの合計9台が稼働しています。より需要が高いのは、台数の多い66Tです。

免許は
不要ながら、
習得には
5年以上!

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか?

特に免許は必要ありませんが、機械のセッティングについては技術が必要なので、社員にしかできません。様々な厚さの紙を扱うので、都度調整をしてから動かします。厚い紙には圧を強くしないと折れませんし、逆に薄い紙に圧をかけすぎるとシワになってしまいます。そのために必要なのが、紙1枚通る隙間に対し、細かな強弱の設定をするという職人技。ダイヤルを回し、紙の斤量に合わせて鉄のローラー一本一本の調整をするのが難しく、それがセッティングの重要なポイントでもあるので、習得するのに5~6年かかります。

絶賛研修中

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか?

セッティングからできるのは、私を含めた6名です。私以外にもう1名いたベテラン社員が部署異動してしまった分、4~5年の経験のある5人の後輩たちには日々作業の注意点を教えています。それが、セッティングに15年ほど携わっている私の大きな役割です。もちろん、毎年入ってくる新入社員にも教えていかなければなりません。紙をセットするまでの手順がいくつもあり、注意しなければいけない項目は20ほどあります。また、1台あたりほぼ1名、多くても2名で不良品の検査から包装などの仕上げをしなければなりません。セッティングが悪いと、不良品がたくさん出てきて処理に追われたり、機械が止まってしまったりすることもあります。セッティングに全てがかかっているといっても過言ではありません。

指などの
怪我に注意

Q.使用上での注意点はどこでしょうか?

怪我には十分注意が必要です。ローラーの隙間を調整する際、指が挟まると大怪我に繋がります。実は私も何度か挟んでしまったことがあり、教える際は厳しく言っています。このような怪我を防ぐために重要なのは、普段作業時に着けている手袋を、セッティングのときだけは外すことです。手袋が巻き込まれると大変危険だからです。また、紙詰まりが起きたときも、対応を間違えると怪我に繋がってしまいます。詰まると機械は自動的に停止しますが、紙を取り除いた途端再度回転し始める危険性があります。必ず非常停止ボタンを押してから紙を取り除くよう指導しています。どちらも最初に教える基本的なことですが、怪我を防ぐためにとても大切です。

スタール RD 66Tの
セッティングと、
糊綴じのできる
メンバーを
増やしたい

Q.今後の目標

24時間ノンストップで稼働できるスタール RD 66Tの生産性は、折り機の中で群を抜いています。現在セッティングを習得中の5名に、引き続き技術を教えていくことが当面の私の使命です。もう1つの目標は、糊装置を付けられるスタールの紙折り機を用いた、糊綴じのできるメンバーを増やすことです。2021年5月頃から教えている3名には、来年中にはマスターし、独り立ちしてくれることを期待しています。糊を使う作業は、今までやってきたこととはポイントが異なり、別の難しさがあります。まず、糊が打たれていないという不良が出ないように気をつけなければなりません。そして、糊の作業は、不良品になるとやり直しがきかないので、セッティングを慎重に行うことが非常に重要です。

